

夢の実現へリニア中央新幹線 ③  
**市民とともにリニアのまちづくり③**  
**女性・若者委員会での取り組み状況**

「リニア中央新幹線」計画について、シリーズでお伝えしています。

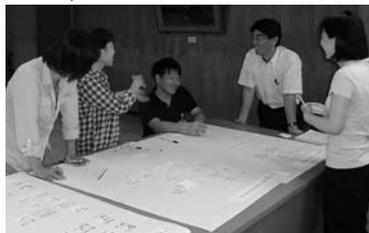
今月は、女性・若者委員会でお出された主な意見と9月5日に開催された「リニアを活かした地域づくりシンポジウム」についてお知らせいたします。

**女性・若者委員会の取り組み状況**

女性・若者委員会では、リニア時代に大人になる今の子どもたち、生まれて来る未来の子どもたちを想像して、「こうなっていればいいな」という「理想のまち・ライフスタイル」

を実現するために何が必要かを少人数のグループごとで議論を行っています。

今回は8つのテーマのうち、4つのテーマに対して主な意見について紹介いたします。これらのご意見は、委員会の意見としてまとめ、リニアのまちづくりビジョンに反映していきたいと考えています。



議論の様子

テーマに対する主な意見

- ①若者が地元で働き、みんなで一緒に暮らせるまち
  - ・首都圏などからの企業誘致、車両基地などリニア関連企業の誘致による雇用の創出
  - ・地場産業・観光産業・地元企業の育成による雇用の創出
  - ・リニア関連工事の地元発注による雇用の創出
  - ・企業にとって魅力あるまちづくり（人材育成、基盤整備、規制緩和など）
- ②若者が自分にあった働き方を選べるまち
  - ・多種多様な業種の企業誘致
  - ・リニア通勤、テレワーク（事業所に毎日出勤せず家で作業を行ったり営業先を回る、在宅ワーク）などの新たな勤務形態
  - ・新規事業、ベンチャー企業などへの支援
  - ・教育、資格取得などの人材育成
  - ・働きながら子育てできる環境整備
- ③たくさんの若者・子どもが生活する活気あるまち
  - ・ソフト・ハード両面で教育、保育、医療などの子育て環境の充実
  - ・大学誘致などによる学園都市づくり
  - ・商業施設、文化・スポーツ施設、レジャースポットなどの若者が集まる場所の整備
  - ・若者の意見が反映される地域づくり
- ④みんなが安心して生活できる住みやすいまち
  - ・医師、看護師の確保、高度救命センターなど、病院・医療機関の充実
  - ・福祉、買い物支援、防犯パトロールなどの充実による老後の不安解消
  - ・学校環境の整備、学童保育の充実
  - ・乱開発防止、河川環境の整備、景観の保全
  - ・住民同士の助け合い、転入者が住みやすい環境など、地域コミュニティの充実

「リニアを活かした地域づくりシンポジウム」開催

9月5日(水)、リニア中央新幹線建設促進岐阜県期成同盟会とリニア中央新幹線活用戦略研究会の共催によるシンポジウムが約530人の方が参加し、恵那文化センターで開催されました。

はじめに、榑木武九州大学名誉教授による「リニアを活かした地域づくりに向けて〜九州新幹線を活かした地域づくりの事例より〜」と題した基調講演が行われ、続いて「リニア中央新幹線開業を見据えた地域の魅力づくり」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは、①リニア中央新幹線を活かした取り組み②リニア開業効果を最大限発揮さ



パネルディスカッションの様子

リニアを活かしたまちづくりに向けたアンケート調査を実施

市では市民の皆さんや市内事業所を対象に、リニア中央新幹線への関心、リニアのまちづくりに関する、市内の交流状況などをお伺いするアンケート調査を9月に実施しました。

現在、集計・分析作業を行っていますが、調査結果は今後の「中津川市リニアのまちづくりビジョン」策定に活用させていただきます。

調査の対象になられた皆さんにおかれましてはご協力ありがとうございました。

せるための基盤整備について議論され、パネリストとして丸山中津川商工会議所会頭が「岐阜羽島駅を例に挙げると羽島市の人口は開業前と現在を比較すると1・59倍になっており、リニア駅が出来ることによる定住人口の増加にどう対応していくのか考えなければいけない」また、「観光とは単なる「遊び」ではなく、人々、人間同士の交流である。地域に経済効果なくして観光とは言えない新しい地域観の発露を出していきたい」と発言されました。

榑木先生は「地域づくりは地域の人々が何をやりたいかを主張し、主張を強めていくことが大切であり、旗頭を明確にすることが重要。東京の人にとってこれまで非日常的なことが、リニアが開業すると日常的になり、今の感覚とは異なることを念頭に置いて戦略を考えていくべき」と助言されました。

問 リニア推進課（内線324）